

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	化粧品原料化学	
科目基礎情報					
開設学科	環境・バイオ科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	化粧品成分検定公式テキスト				
担当教員情報					
担当教員	堀川 典子		実務経験の有無・職種	有・経営コンサルタント	
学習目的					
化粧品の原料には様々な無機化合物や有機化合物があり、化粧品を製造する、もしくは設計する際には各々の機能や役割を理解する必要がある。本講義では油脂や界面活性剤などの有機化合物に着目し、それらの性質、化学構造および機能を理解することを目的とする。化粧品を構成する化合物の意義や役割などを学び、最終的には化粧品の処方設計など、化粧品製造についての「専門力」を身に付けることが本講義の目的である。					
到達目標					
化粧品に用いられるさまざまな無機化合物や有機化合物の機能や役割がわかるようになり、機能によるグルーピングが理解できるようになる。特に化粧品の全成分表示と実際に入っている物質の関係がわかるようになる。成分表示名を見てその物質の性質や製品の特徴が予想できるようになる。化粧品成分検定2級に合格できる実力を身に付ける。					
教育方法等					
授業概要	化粧品成分に関する基礎的な知識（化粧品成分検定2級レベル）を学ぶ。化粧品の原料には様々な無機化合物や有機化合物があり、化粧品を製造する、もしくは設計する際には各々の機能や役割を理解する必要がある。本講義では化粧品成分検定2級テキストを使い、油脂や界面活性剤などの有機化合物に着目し、それらの性質、化学構造および機能について講義する。これらの講義を通じて化粧品を構成する化合物の意義や役割などを学び、全成分表示が読めるようになる。				
注意点	授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーと能動的な学習姿勢で授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は取得ができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	80%	試験を実施する		
	小テスト				
	レポート				
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
	その他				
授業計画（1回～8回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	化粧品とは		化粧品がどのようなものか、医薬品医療機器等法とパッケージの表示と成分表示のルールがわかる		
2回	化粧品の構造		化粧品を構成する成分にはどのようなものがあるのかを理解できる		
3回	化粧品のベース成分：水性成分、油性成分		水性成分、油性成分のはたらきや性質、どのようなものがあるかがわかる		
4回	化粧品のベース成分：界面活性剤		界面活性剤のはたらきや性質、どのようなものがあるか、その用途などがわかる		
5回	化粧品の機能性成分 1		美白成分、抗シワ／エイジング成分の役割について理解できる		
6回	化粧品の機能性成分 2		肌質改善剤、紫外線防止剤の役割について理解できる		
7回	化粧品の安定化成分とその他の成分		安定化成分、色剤や温感・冷感成分などの役割について理解できる		
8回	化粧品の全成分表示と実際の成分		全成分表示例が読み取ったり書いたりできるようになる		